

ダイシャクシギ チュウシャクシギ コシャクシギ

今までの講座では、英名の方がそのものズバリの表現で、和名より分かりやすいというものが大部分でした。ところが、今回の3種はどう見ても和名の方に軍配が上がります。

- | | |
|----------|-------------------|
| ダイシャクシギ | — Curlew |
| チュウシャクシギ | — Whimbrel |
| コシャクシギ | — Little Whimbrel |

和名は単純にあの長いくちばしを“杓”に見立て、それを大、中、小とその長さによって分類したもので、いたって簡単明瞭。しかもズバリその特徴をとらえています。

- | | |
|----------|-------|
| ダイシャクシギ | — 大杓鷗 |
| チュウシャクシギ | — 中杓鷗 |
| コシャクシギ | — 小杓鷗 |

鳥の名は、和名でも英名でも一種の専門用語であり、バードウォッチャーでない普通の人にとっては、まったく不可解な記号としか思えないものも多くあります。試しに、あなたのまわりの「普通」の人に、ミサゴ、ツミ、サシバ、ノスリ、またはハチクマが何であるか聞いてみると、おもしろい結果が出るでしょう。

私も、この Curlew と Whimbrel について、普通のアメリカ人にテストしてみたら、「全然分からない」が圧倒的に多く、ごく一部の人が「Curlew は、ある種のトリ??」との答が出ました。バードウォッチャーは、その傍でニヤニヤ・・・。

くちばしは、鳥類の最もすばらしい多目的な道具であり、武器であり、驚くことにその先端まで血が通っており、生きているのです。餌の種類により、それに適した形、大きさのものを、自由自在に駆使している姿をフィールドで観察し、時には英名も思い浮かべましょう。

次回からは、くちばし以外の特徴のあるものをひろってお話しましょう。お楽しみに！

大宮のハクトウワシ